

## 心を離さない子育て

校長 西川 芳夫

もうすぐ立春、暦の上では春ですが、一年中で最も寒い時です。県内ではインフルエンザが猛威をふるっています。本校では、今のところインフルエンザにかかっている生徒は少なく、元気に学校生活を送っています。引き続き学校を挙げて予防に心がけますが、ご家庭におかれましても、うがいと手洗いの励行、十分な睡眠がとれますよう、ご協力をよろしくお願いします。

現在3年生は受験シーズンのまっただ中です。推薦入試が終わり引き続き私立入試、県立入試と続きます。乗り越えなければならない厳しい時ですが、悔いの残らぬよう毎日の生活を大切に、一人一人が納得のいく進路をつかみ取ってほしいと願っています。また、1・2年生は今年度をまとめ、次年度につなぐために学習や部活動に力を入れています。2年生は修学旅行に向けての話し合いを、1年生は職業調べなどキャリア学習に取り組んでいます。月日がたつのは早く、あと2ヶ月で今年度が終わります。希望に満ちた新しい学年を迎えるためにも、今のこの時期を大切に、しっかりと締めくくってほしいと願っています。

多田ヶ嶺「保護者の声の欄」に、いつも保護者の方々の声を届けていただき、感謝申し上げます。お一人お一人の返信から、お子様への深い愛情、二中を大切にしてくださるお気持ち伝わるとともに、いつも温かい気持ちにさせていただいております。また、保護者の方々の言葉から、教職員一同大きな刺激を受け、多くのことに気づかされ、学ばせていただいております。

毎回感じさせられる二中保護者の温かく大きな存在に感謝しながら、教職員一丸となって、心を込めてお子様の成長を支援していきます。

「保護者の声」の中には、わが子への接し方に迷っておられるご意見が毎回あります。中学生の時期は、体の成長が著しいのに反して心の成長が伴わず心と体の成長がアンバランスとなり、人生の中で最も心が揺れ動く時です。それだけに、親のかかわり方ひとつ、教師のかかわり方ひとつで、お子様の成長が大きく変わってくる大切な時、学校と家庭との連携が何より必要な時なのです。

子育て四訓を紹介します。

- 1 乳児はしっかり肌を離すな
- 2 幼児は肌を離せ 手を離すな
- 3 少年は手を離せ 目を離すな
- 4 青年は目を離せ 心を離すな



私が思うところですが、中学生時代は少年期終わりから青年期の初め、3と4の間くらいではないでしょうか。当然、手は離さなければならない時期、自立の時です。ただ、目を離してよいのかどうかは親として悩むところです。子どもの成長をみて、徐々にそうしていく必要があるのでしょうか。ただ、目を離しても、心だけは離してはいけないということを、この四訓は教えてくれます。

青年期は長く続きますが、大変、奥の深いことばです。わが子は何に熱中し、何に悩み、何を思い日々生活しているのか、つかめないことは増えてきます。

しかし、決して心は離さず、気にかけていくことが大切なのですね。「心を離さない子育て」、私自身、肝に銘じたいと思っています。

## 2・3月の生活目標 1年間のゴールを目指して、かけがえのない学級にしよう

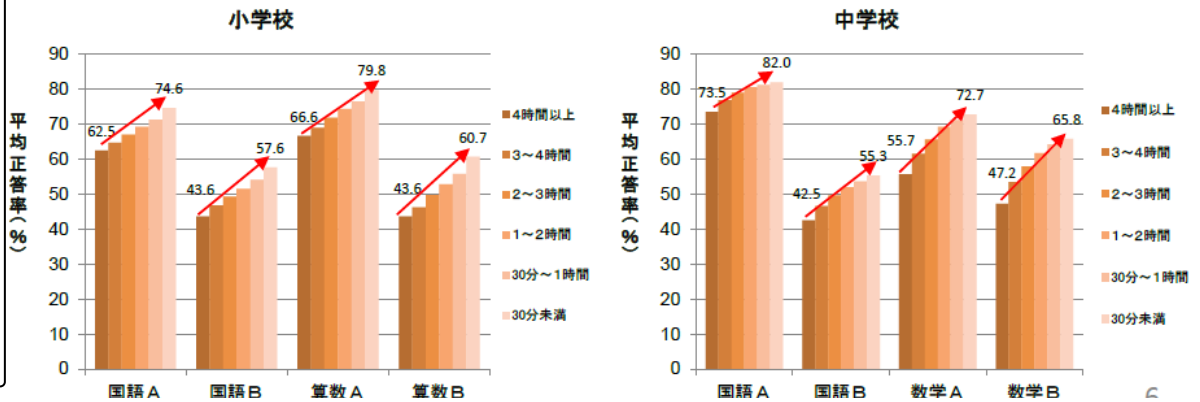
生徒指導主事担当 山下和彦

2月になりました。いよいよ今年度も残すところ後2ヶ月になりました。本当にもう後わずかです。4月からの1年間、どの学年も学級の仲間との思い出をたくさん作ったことと思います。楽しかったことや辛かったことなど…いろいろなことがあったと思います。

さて、どの学年も学年のまとめをしていく時期にさしかかってきました。卒業式や修学旅行など、最高の舞台が近づいてきました。球技大会もあります。毎日の学校生活もあります。学級の仲間とどう過ごしていきますか？学級の仲間のためにどう過ごしますか？1年間のゴールは本当にもう目の前です。かけがえのない思い出を、かけがえのない学級で作って行きましょう。

### ○児童生徒の学習・生活習慣と学校の平均正答率との関係

図表1 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



これは、平日1日あたりの携帯電話・スマートフォンの使用時間と学力テストの平均正答率との関係(国立教育研究所「全国学力・学習状況調査の結果について」より)を表したグラフです。この全国の調査結果では利用時間と学力には深い関係があることがわかります。利用時間が長いほどテストの点数が低い、利用時間が短いほどテストの点数が高いということです。これは小学校、中学校、国語、数学どの教科とも全て同じ結果が出ています。当然ですが、利用時間が長ければそれだけ学習にかける時間が短くなるので、学力にも影響が出てきます。これはネットに限らず、何事においても同じです。自分でケジメをつけて効果的に利用できるようにすることが、一番大切になってくると思います。

本校でも「インターネットの利用等に関するアンケート」を1月に行いました。その結果、本校生徒の利用時間が大変長いということが分かりました。この状況をしっかりと認識していただき、保護者の方には、お子さんのスマホ等の正しい使い方を教え、正しく使う力をつけてください。よろしくお願いします。

小浜二中

検索

# 1万アクセス突破!

- ・毎月、お忙しい場合は、サインや一言でも結構ですので**必ず提出**して下さい。
- ・保護者の声については次号で紹介させて頂くことがありますが、ご了承ください。

二中学校だより

多田ヶ嶺2月号 **保護者の声** 年 組 保護者氏名



# 部活動コーナー

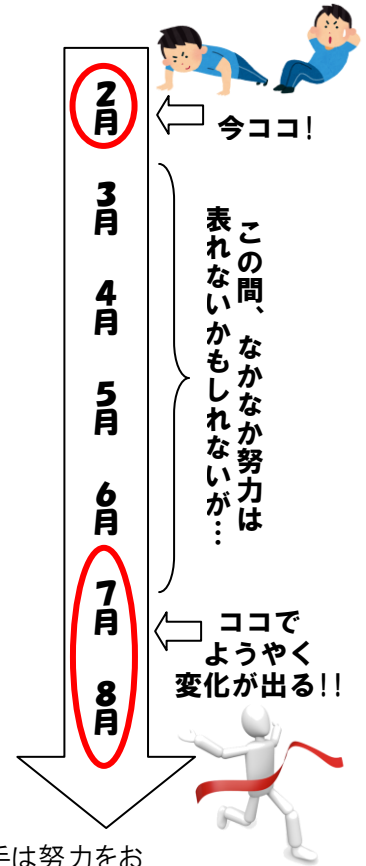
部活動主任 古田 哲也

## 【春に向けて…】

早いものでもう2月です。あと2ヶ月で春の大会、あと6ヶ月で夏の大会を迎え、引退です。冬の間は天気が悪い日が多く、特に外の部活動にとっては試練の時期です。冬の時期はほとんどの部活動がトレーニングに励んでいると思います。すでに知っている人も多いとは思いますが、トレーニングの成果は3カ月ほどしないと表れ始めません。そして、明らかな変化を感じるまでには半年～1年くらいかかるそうです。逆算していくと、今ついている力は半年前の努力によるもの、そして、今きたえている分は半年後の夏の大会の時期でようやく力となって表れてくるのです。直前に少し頑張っただけの努力では自分の力を最大限に高めることはできません。それくらい実力をつける道のりは長いのです。

また、新チームとなり半年が経ち、慣れによって練習がだらけてしまう時期でもあります。それから、寒さで思うように動けないこともストレスになります。そうすると、部活内でも色々な問題や弱さが生じるのがこの時期です。練習でだらけてしまう、部員どうしの仲がこじれる、不要物を持ってくるなどの校則違反…自分の部活はどうでしょうか？もちろん1年中いい状態を保つのは難しいです。だからこそ、そういった問題が生じたときにしっかりと向き合うことが大切です。自分たちが目指しているもの何だったのか、この夏にどんな最後を迎えたいのか、そこを見つめなおせば、どんな練習をしなければならないのか、部員どうしの関係はどうあるべきなのか、どういった学校生活を送らなければならないのか、その答えは出てくるはずですよ。

冬の時期は長い分、人一倍努力した人はグンと伸びるので、レギュラーの選手は努力をおこたれば春から夏にかけて立場の逆転も十分にありえます。そういう意味でも冬は非常に重要な時期です。また、大会や練習試合のシーズンになると今ほどトレーニングをする時間もなくなります。今しかできないことを全力で。半年後のために。



🏆 1年後の成功を想像すると、日々の地味な作業に取り組むことができる。

僕はその味をしめてしまったんですよ。 本田圭佑 (サッカー)

🏆 どんなにいいヒントを貰っても、それを実行しなければ成果は上がってこない。 落合博満 (野球)

🏆 スポーツは、まさに人生そのものだ。努力した分だけ、自分に返ってくる。

僕は「努力の天才」になりたいと思っている。 イアン・ソープ (競泳)

🏆 何事も自分で無理だとやる前から結論を出してしまえば、それまでだ。それ以上の成長はない。

金本知憲 (野球)

🏆 練習で自分自身に負ける者は、必ず試合でも自分に負ける。

吉田秀彦 (柔道)

二中学校だより

多田ヶ嶺 2月号 生徒の声 \_\_\_\_\_ 年 組 氏名

-----

-----

-----

# 家庭学習充実に向け

3学期もあと二月となりました。これまでの積み重ねの成果が出始める頃です。学年最後の定期テストに向け、もうひとがんばりしていきましょう。

研究主任 上北 理加

## 家庭学習の時間確保から質の向上にむけ

2学期より、テスト前の学習時間の確保とその定着に向け、様々な取り組みをしてきました。学力向上のためには、まず「学習の時間（量）」の確保が重要と考えられます。そして少しずつその確保ができるようになったら、次に必要なのは「学習の質」といえます。

学習の質を上げるには、まず無駄な学習をはできるだけ無くすることが大切です。例えば、できる問題ばかりする、新しい問題にひたすら取り組み、できないままの問題が残っている、覚えることよりきれいにまとめる学習ばかりする等です。

中学生の現状を見ると、問題集に対する取り組み飲み直しが必要に感じます。提出することが目標になって、ひたすら答を見て答を写し取り、結果理解できない部分になっていたり、ちょっと難しいとあきらめてしまったりというところがあります。そういう状況を無くすためにも、今自分が何につまずいているのかをしっかりと把握し、1つ1つできないところを無くしていくことが必要です。十のうち九分からなければ、1つずつ分らないところを減らしていけばよいわけです。

そのために、「解き直し」は大変有効です。いろんな問題に取り組み前に、今、目の前にある学校の問題集に何度も挑戦して下さい。1回目できなくても、2回目にはできるようになった問題も出てくるはずですよ。そこでもできなかつたら、3回目に挑戦したらよいのです。回数が増えるほど取り組む問題数は減ってくるはずですよ。この学習法はあくまでも1つのやり方ですが、取り組むことが多ければ多いほど、やる気の失われる可能性があるため、1つの問題集に絞ることはそれなりに効果は多きはずですよ。

最後に、とても気になる記事があったので紹介します。



失敗のような過去の経験から学ぶことを「教訓帰納」と呼び、学習効果を高める方略の一つとされている。間違いの理由を理解することは、同じ過ちを繰り返さないことにつながる。やみくもに量をこなすだけでなく、そうした効果が高いとされる学習方法を、子どもたちにきちんと身につけさせたい。それは短期的に知識や技能を高めることでテストの点数を上げるのではなく、持続的に子どもの学力を高めるのに役立つはずだ。（「ベネッセのオピニオン」より抜粋）

## 学校支援ボランティアさん



上田誠二さん・片山嘉人さん・畠中良夫さん・井尻英孝さん・河野隆代さん・※清水孝宏さん <写真左から>

『営繕・清掃班』では、暑い日も寒い日も休日にもかかわらず校舎内外の清掃活動や小修理、樹木の手入れ、除草作業などに一生懸命取り組んで下さいました。

また、『登下校班』では茶谷益行さん・上田誠二さんが、地域で登下校時のあいさつ運動や安全指導を行って下さいました。『図書班』では上田誠二さん・永井ふじ美さんが図書室の整備などの運営協力をして下さっていました。

今年1年間「中学生が少しでも良い環境で学校生活を送れるように」という学校支援ボランティアの皆様の温かく熱い思いに心から感謝したいと思います。

ありがとう  
ございました

